

ひだまり

第17版

令和6年 2月号

公立八鹿病院 緩和ケア病棟



今年は、元旦から能登半島地震が起き、被災しておられる方々へ謹んでお見舞い申し上げます。

先日まで暖冬で過ごしやすい冬でしたが、大雪となりましたね。病棟からの雪景色をご覧ください。

以前、緩和ケア病棟での過ごし方についてお知らせしましたが、今回は、自宅に帰られた患者さんとご家族の様子をご紹介します。

一時退院を繰り返し過ごされたAさんの場合

家で過ごしたいなあ

Aさん



家族

家で見てあげたいが、最期の時までとなると、自分の体調も悪く自信がない…。家で休んでいても、様子が気になってしまうのではないかな。

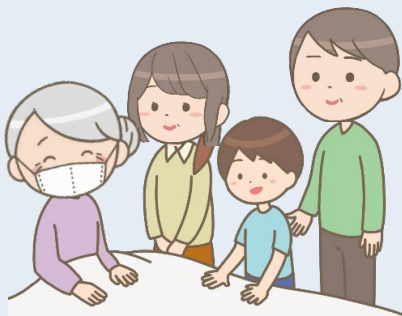


家族を含め多職種で検討。家族の介護疲労を考慮し、「1～2週間入院」「在宅1か月」を繰り返し過ごすことを提案。

～入退院（レスパイト入院）を繰り返し過ごされたの思い～

家に帰れてよかった。

Aさん



自分の身体を休めることができた。家で過ごしたい気持ちにも寄り添えた。

ご家族の疲労感などによって、入院や在宅期間を調整しました。

12月にクリスマス会をおこないました

久しぶりにホールで開催しました。スタッフのピアノ伴奏でクリスマスソングを歌ったり、スタッフのダンスなどで楽しい時間を過ごしました。3月には、雛祭り会を予定しています。



病棟に季節の飾りを飾っています

季節を感じていただきたいと思い、ホールにお正月飾りや、折り紙で雪の結晶を作成し、つるし飾りをしました。



短期間自宅で過ごされたBさんの場合

転院時に、一度は家に帰りたかったの…。

Bさん

家族



老々介護になるため、退院は無理だろう。痛み止めを使いながら病状を安定させ、短期間なら子供たちも協力してくれるが…

家族を含め多職種で検討。

数日の退院なら在宅生活が可能と確認。

- 福祉用具をレンタル
- 介護指導などを調整



家のリフォームが見れて、安心した。孫やひ孫、親類、近所の方と会えて嬉しかった。みんなで食事して美味しかった。



退院しての様子、思い



妻の思いが実現できて良かった。訪問看護師さんに相談できて安心した。可能なら、もう一度家で過ごさせてあげたいな。

患者さんの思いをスタッフで共有し、できる限り患者さんの思いが叶うようにお手伝いさせていただきます。

